

なぜ、遺伝子組み換え作物は誤解されるのか？

“遺伝子組み換え食品の議論において、
科学は良くも悪くも「利用」されてきた。

**FOOD EVOLUTIONは、
その真相にせまる映画である。”**
(天体物理学者 ニール・ドグラス・タイソン氏)

スコット・ハミルトン・ケネディ監督作品

FOOD|EVOLUTION

ニール・ドグラス・タイソン氏ナレーション

2018年12月14日(金)

上映会・クロストーク：15:00～17:00 (無料)

懇親会：17:00～18:30 (懇親会費 3,000円)



会場

ベルサール八重洲 3階 Room2

〒103-0028 東京都中央区八重洲1-3-7八重洲ファーストフィナンシャルビル3F
(「日本橋駅」A7出口 直結、「東京駅」八重洲北口 徒歩3分)

第一部

15:00～

Food Evolution 上映(日本語字幕)

遺伝子組み換え作物は、1996年アメリカで世界で初めて商業化され、今では世界での耕作面積は1億8980万ha(日本の国土面積の約5倍)にも達しています。

Food Evolutionは、ハワイのレインボーパイパイ、アフリカでの遺伝子組み換えバナナなどの事例とともに、遺伝子組み換え作物に関する議論において科学と市民がどうかかわってきたか紹介し、今後我々はどうするべきかを問う映画です。

第二部

16:20～

クロストーク

クロストークでは、遺伝子組み換え作物への見方はいろいろあるでしょうが、科学的事実をどう消費者に伝えるべきなのか、また消費者はあふれかえる情報にどう向き合うべきなのか、それぞれのポイントを探りながら議論します。
(ファシリテーター：小島正美)

懇親会

17:00～

懇親会にご参加の方は、当日会場受付にて、懇親会費1人3,000円を徴収いたします。

申し込み方法

定員100名

以下URLの申し込みフォームより必要事項を記入の上、お申込みください。

申込期限：2018年12月7日(金)

【申込フォームURL】http://bit.ly/foodevolution_japan

申込フォームQRコード



問い合わせ先

「遺伝子組み換え作物を考える映画実行委員会」事務局

【Email】foodevolution@storieson.co.jp

主催：「遺伝子組み換え作物を考える映画実行委員会」

クrostーク登壇者（五十音順）

広尾学園高等学校 医進・サイエンスコース 2年生
石田萌音 / Mone Ishida

北海道北見市常呂町 農業生産者
小野寺 靖 / Yasushi Onodera

国立大学法人筑波大学 プログラムコーディネーター
住吉 美奈子 / Minako Sumiyoshi

食のコミュニケーション円卓会議 代表
市川 まりこ / Mariko Ichikawa

大阪府立大学 生命環境科学研究科 教授
小泉 望 / Nozomu Koizumi

映画監督・ナレーター

映画監督

スコット・ハミルトン・ケネディ

アカデミー賞ノミネート歴のあるドキュメンタリー映画監督。ライター、プロデューサー、カメラマン、エディター。本映画の制作会社であるBlack Valley Films社の創始者である。

ナレーター

ニール・ドグラス・タイソン

アメリカの天体物理学者。サイエンス・コミュニケーター。2004年NASAが民間人に与える最高の賞、NASA Distinguished Public Service Medalを受賞。2014年に放映されたドキュメント番組「コスモス:時空と宇宙」では番組のホストを務めた。

「遺伝子組み換え作物を考える映画実行委員会」とは・・・

米国で制作されたこの映画を見て、組み換え作物の是非だけでなく、科学者と市民のかかわり方、政治（議会）と市民の関係などを考えるテキストにもなるのではと考えました。といっても、一人で上映会を執行するのは大変です。関心のありそうな仲間5人に声をかけ、実行委員会をつくりました。今後、各地で上映会をやっていけたら最高です。ご協力をお願いします。

メンバー：代表 小島 正美、（以下、順不同）小泉望（大阪府立大学）、蒲生恵美（消費生活アドバイザー）、平沢裕子（産経新聞社）、中野栄子（日経BP社）、市川まりこ（食のコミュニケーション円卓会議）



会場アクセス詳細

<住所>

〒103-0028
東京都中央区八重洲1-3-7
八重洲ファーストフィナンシャルビル3F

<最寄り駅>

- 「日本橋駅」A7出口 直結（東西線・銀座線・浅草線）
- 「東京駅」八重洲北口 徒歩3分（JR線・丸ノ内線）

<現地連絡先>

03-3548-3770

